

課程 全日制

| 教科 | 外国語 | 科目 | 英語コミュニケーション I | 単位数 | 3 | 学年 | 1 | 科 | 全学科 |
|-------|-----|--|---------------|-----|---|----|---|---|-----|
| 使用教科書 | | My Way English Communication I（三省堂） | | | | | | | |
| 補助教材等 | | My Way English Communication I Workbook Standard（三省堂） データベース 3300 基本英単語・熟語 Workbook A・B（桐原書店） Learners' English Grammar in 21 Stages（数研出版） Pre Listening Box（啓林館） | | | | | | | |

1 学習の到達目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考え方などを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 外国語の学習を通して、社会や世界に目を向け、他者や他文化への理解を深めるための大切な授業です。授業中での言語活動に積極的に取り組み、音声や文字を的確に捉え、自身の言葉としてそれを定着させることを目標に授業に取り組んでください。
- 授業で扱う教材の理解を深めるため、意味の分からない語は辞書等で調べましょう。まとまった文章の概要を捉えるため、内容理解等に関する設問や教材も使用します。語彙を増やすために単語帳を使用し、書き取りドリル等の宿題を課すこともあります。言語の習得には反復練習が効果的です。粘り強く復習を行い、課題は必ず提出して下さい。成績不振者に対しては学期ごとに課題、追試、補習等を課します。
- 授業では「読む」「書く」「聞く」「話す」活動を行います。間違いを恐れず積極的に英語を声に出したり書いたりして自分の言いたいことを伝え、友達や教材から伝えられることを理解しようとする姿勢を養いましょう。
- 英語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。また、限られた授業時間の中だけで英語を身に着けることは簡単ではありません。毎日少しでも意識的に英語に触れ、英語の音や文字に慣れ親しむ習慣をつけて下さい。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|--|---|---|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、 | ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の | ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |

| | | | |
|--------|--|---|--|
| | 話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。 | 意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ・知識や技能を習得するために課題等に取り組み、定着を図ろうとしている。 |
| 主な評価方法 | ・定期テスト（知識の習得を問う問題及び知識の概念的理解を問う問題）の結果 | ・定期テストの応用問題の結果 ・英作文や発表などの内容及び到達度 | ・日常的な授業の取り組みや発言、ペアワークやグループワークへの取り組み ・行動観察 ・提出課題の取り組み状況 |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単 元 | 教 材 | 時 数 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-------------|---|----------------------|--|--------|-------------------------------|--|
| 一 学 期 | 4 | 世界の様々な文化（ことわざ）について学ぶ | Lesson1 Proverbs Around the World | 30 | 動詞の現在形・過去形・現在進行形/SVO | 各単元に出てくる単語や熟語、言語表現が理解できたり、書くことができる。また、単元の内容を的確に捉えている。 (a) それぞれの単元の文法事項が理解できて定着している。(a) 関連したテーマについて作文したり、応用的な内容の物を理解できる (b) 授業に積極的に取り組み、扱ったプリントや課題を提出している。(c) |
| | 5 | 動物を通して生き方や考え方について学ぶ | Lesson2 Iwago Mitsuaki – An Animal Photographer | | 助動詞／受け身／助動詞のついた受け身 | |
| | 6 | 高校生の挑戦について知り、経緯を学ぶ | Lesson3 Sending Canned Mackerel to Space 通年で ※教科書の文法事項に該当する項目を Learners' English Grammar で より詳しく学ぶ ※単語帳 | | 動名詞／to 不定詞の名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法 | |

| | | | | | | |
|-------------|----|-------------------------------------|--|----|--|---|
| | | | Database3300 を用いて語彙を 広げる | | | |
| 二 学 期 | 7 | 「クマのプー さん」に込め られたメッセ ージを知る | Lesson4 Messengers from <i>Winnie the Pooh</i> | 45 | 現在完了形／現在完了進 行形／過去完了形 | 各単元に出てくる単 語や熟語、言語表現 が理解できたり、書 くことができる。ま た、単元の内容を的 確に捉えている。 |
| | 8 | | | | 関係代名詞（主格）／関係 代名詞（目的格）／関係代名 詞 what | (a) |
| | 9 | 消滅の危機に ある言語につ いて学ぶ | Lesson5 Endangered Languages | | It is ... to 不定詞 | それぞれの単元の文 法事項が理解できて 定着している。(a) |
| | 10 | 三代達也さん の世界旅行の 経験を知る | Lesson 6 A Wheelchair Traveler | | 現在分詞の形容詞的用法／ 過去分詞の形容詞的用法／ 分詞構文／It is ... that ～ | 関連したテーマにつ いて既習事項を用い た作文や発表をした り、応用的な内容の 物を理解できる |
| | 11 | 難民の子供た ちの現状を知 る | Lesson 7 The Fugees | | 関係副詞 where／関係副詞 when／関係副詞 why／ 比較級・最上級 | (b) 授業に積極的に取り 組み、扱ったプリン トや課題を提出して いる。(c) |
| 三 学 期 | 12 | | Pre Listening Box を週 1 回 のペースで開始 | 30 | 条件を表すif節／仮定法過去 ／I wish ～／as if ～ | 各単元に出てくる単 語や熟語、言語表現 が理解できたり、書 くことができる。ま た、単元の内容を的 確に捉えている。 |
| | 1 | 技術開発につ いて考える | Lesson 8 Avatar Robots | | | (a) |
| | 2 | | | | SVO ₁ O ₂ (O ₂ =how to ～) ／ SVO+to 不定詞／ SVOC (C=動詞の原形) ／ SVOC (C=現在分詞) | それぞれの単元の文 法事項が理解できて 定着している。(a) |
| | 3 | 作品と想像力 の関係につ いて学ぶ | Lesson 9 Kadono Eiko and the Power of Imagination | | | 関連したテーマにつ いて既習事項を用い |
| | | SDGs に関する 様々なテーマ | Lesson 10 SDGs — | | | |

| | | | | | | |
|--|--|-------------------|-------------------------------|--|--|---|
| | | のプレゼンテーションを読み、考える | Sustainable Development Goals | | | <p>た作文や発表をしたり、応用的な内容の物を理解できる (b)</p> <p>授業に積極的に取り組み、扱ったプリントや課題を提出している。(c)</p> |
|--|--|-------------------|-------------------------------|--|--|---|

合計 105時間

課程 全日制

| | | | | | | | | | |
|-------|-----|---|--------------|-----|---|----|---|---|-----|
| 教科 | 外国語 | 科目 | コミュニケーション英語Ⅱ | 単位数 | 3 | 学年 | 2 | 科 | 全学科 |
| 使用教科書 | | My Way English Communication II（三省堂） | | | | | | | |
| 補助教材等 | | My Way English Communication II Workbook Standard（三省堂） データベース 3300 基本英単語・熟語 Workbook B・C（桐原書店） Learners' English Grammar in 21 Stages（数研出版） Listening Box 1（啓林館） | | | | | | | |

1 学習の到達目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考え方などを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 外国語の学習を通して、社会や世界に目を向け、他者や他文化への理解を深めるための大切な授業です。授業中での言語活動に積極的に取り組み、音声や文字を的確に捉え、自身の言葉としてそれを定着させることを目標に授業に取り組んでください。
- 授業で扱う教材の理解を深めるため、意味の分からない語は辞書等で調べましょう。まとまった文章の概要を捉えるため、内容理解等に関する設問や教材も使用します。語彙を増やすために単語帳を使用し、書き取りドリル等の宿題を課すこともあります。言語の習得には反復練習が効果的です。粘り強く復習を行い、課題は必ず提出すること。成績不振者に対しては学期ごとに課題、追試、補習等を課します。
- 授業では「読む」「書く」「聞く」「話す」活動を行います。間違いを恐れず積極的に英語を声に出したり書いたりして自分の言いたいことを伝え、友達や教材から伝えられることを理解しようとする姿勢を養いましょう。
- 英語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。また、限られた授業時間の中だけで英語を身に着けることは簡単ではありません。毎日少しでも意識的に英語に触れ、英語の音や文字に慣れ親しむ習慣をつけて下さい。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|--|---|---|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意 | ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |

| | | | |
|--------|--|--|--|
| | 話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。 | 図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ・知識や技能を習得するために課題等に取り組み、定着を図ろうとしている。 |
| 主な評価方法 | ・定期テスト（知識の習得を問う問題及び知識の概念的理解を問う問題）の結果 | ・定期テストの応用問題の結果 ・英作文や発表などの内容及び到達度 | ・日常的な授業の取り組みや発言、ペアワークやグループワークへの取り組み ・行動観察 ・提出課題の取り組み状況 |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単 元 | 教 材 | 時 数 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-------------|---|--------------------------|--|--------|--|---|
| 一 学 期 | 4 | 世界の様々な文化について学ぶ | Lesson1 Dances Around the World | 30 | SVO(O=that / what / if / whether 節) SVO ₁ O ₂ (O ₂ = if / that / what 節) | 各単元に出てくる単語や熟語、言語表現が理解できたり、書くことができる。また、単元の内容を的確に捉えている。 |
| | 5 | 桂三輝さんの英語落語についてのインタビューを読む | Lesson2 Katsura Sunshine | | 形式主語の it 形式目的語の it | (a) それぞれの単元の文法事項が理解できて定着している。(a) |
| | 6 | | 通年で ※教科書の文法事項に該当する項目を Learners' English Grammar でより詳しく学ぶ ※単語帳 Database3300 を用いて語彙を広げる ※Listening Box を用いて必要な情報を聞きとる力を伸ばす | | 海外からの旅行者や友人に紹介する日本文化について話す | 関連したテーマについて既習事項を用いた作文や発表をしたり、応用的な内容の文を理解できる (b) 授業に積極的に取り組み、扱ったプリントや課題を提出している。(c) |

| | | | | | | |
|-------------|----|-------------------|---------------------------------|----|--|---|
| 二 学 期 | 7 | 野生動物保護活動について考える | Lesson 3 | 45 | 現在完了形 | 各単元に出てくる単語や熟語、言語表現が理解できたり、書くことができる。また、単元の内容を的確に捉えている。 (a) それぞれの単元の文法事項が理解できて定着している。(a) 関連したテーマについて既習事項を用いた作文や発表をしたり、応用的な内容の文を理解できる (b) 授業に積極的に取り組み、扱ったプリントや課題を提出している。(c) |
| | 8 | | Living with Nature | | 現在完了進行形 | |
| | 9 | | | | 過去完了形 | |
| | 10 | | | | 過去完了進行形 | |
| | 11 | | Lesson 4 Sesame Street | | 絶滅の危機にある動植物の現状について話し合い、発表する | |
| | | | | | SVOC (V＝知覚動詞 C＝動詞原型) SVOC (V＝知覚動詞 C＝過去分詞) SVOC(V＝使役動詞 have,make C＝過去分詞) help+O+動詞の原形 | |
| 三 学 期 | 12 | 海外での活動・ビジネスについて知る | Lesson 5 From Landmines to Herb | 30 | 関係代名詞（主格） 前置詞＋関係代名詞 関係代名詞の非制限用法 関係副詞の非制限用法 | 各単元に出てくる単語や熟語、言語表現が理解できたり、書くことができる。また、単元の内容を的確に捉えている。 (a) それぞれの単元の文法事項が理解できて定着している。(a) 関連したテーマについて既習事項を用いた作文や発表をしたり、応用的な内容の文を理解できる (b) |
| | 1 | | | | 参加してみたい国際ボランティア活動について話す | |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |
| | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|-----------------------------------|
| | | | | | | 授業に積極的に取り組み、扱ったプリントや課題を提出している。(c) |
|--|--|--|--|--|--|-----------------------------------|

合計 105時間

課程 全日制

| 教科 | 外国語 | 科目 | コミュニケーション英語Ⅱ | 単位数 | 2 | 学年 | 3 | 科 | 全学科 |
|-------|-----|---|--------------|-----|---|----|---|---|-----|
| 使用教科書 | | My Way English Communication II Workbook Standard (三省堂) | | | | | | | |
| 補助教材等 | | My Way English Communication II Workbook Standard (三省堂) データベース 3300 基礎英単語・熟語 Workbook C (桐原書店) Learners' English Grammar in 21 Stages (数研出版) Listening Box 1 (啓林館) | | | | | | | |

1 学習の到達目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考え方などを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 外国語の学習を通して、社会や世界に目を向け、他者や他文化への理解を深めるための大切な授業です。授業の中での言語活動に積極的に取り組み、音声や文字を的確に捉え、自身の言葉としてそれを定着させることを目標に授業に取り組んでください。
- 授業で扱う教材の理解を深めるため、意味の分からない語は辞書等で調べましょう。まとまった文章の概要を捉えるため、内容理解等に関する設問や教材も使用します。語彙を増やすために単語帳を使用し、書き取りドリル等の宿題を課すこともあります。言語の習得には反復練習が効果的です。粘り強く復習を行い、課題は必ず提出すること。成績不振者に対しては学期ごとに課題、追試、補習等を課します。
- 授業では「読む」「書く」「聞く」「話す」活動を行います。間違いを恐れず積極的に英語を声に出したり書いたりして自分の言いたいことを伝え、友達や教材から伝えられることを理解しようとする姿勢を養いましょう。
- 英語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。また、限られた授業時間の中だけで英語を身に着けることは簡単ではありません。授業以外でも毎日少しでも意識的に英語に触れ、英語の音や文字に慣れ親しむ習慣をつけて下さい。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------|--|---|---|
| 科目ごとの評価の観点の趣旨 | ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、 | ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケ |

| | | | |
|--------|--|--|--|
| | 知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。 | 詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 | ーションを図ろうとしている。 ・知識や技能を習得するために課題等に取り組み、定着を図ろうとしている。 |
| 主な評価方法 | ・定期テスト（知識の習得を問う問題及び知識の概念的理解を問う問題）の結果 | ・定期テストの応用問題の結果 ・英作文や発表などの内容及び到達度 | ・日常的な授業の取り組みや発言、ペアワークやグループワークへの取り組み ・行動観察 ・提出課題の取り組み状況 |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単 元 | 教 材 | 時 数 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-------------|---|-------------------|--|--------|---|---|
| 一 学 期 | 4 | 海外での活動・ビジネスについて知る | Lesson 5 From Landmines to Herb | 20 | 関係代名詞（主格） 前置詞＋関係代名詞 関係代名詞の非制限用法 関係副詞の非制限用法 | 各単元に出てくる単語や熟語、言語表現が理解できたり、書くことができる。また、単元の内容を的確に捉えている。 |
| | 5 | | | | 参加してみたい国際ボランティア活動について話す | (a) |
| | 6 | 世界の壁画プロジェクトについて学ぶ | Lesson6 Murals—The Power of Public Art ※教科書の文法事項に該当する項目を Learners' English Grammar でより詳しく学ぶ ※単語帳 Database3300 を用いて語彙を | | 助動詞/助動詞の過去形 助動詞+have+過去分詞 完了不定詞 | それぞれの単元の文法事項が理解できて定着している。(a) 関連したテーマについて既習事項を用いた作文や発表をしたり、応用的な内容の文を理解できる (b) 授業に積極的に取り組み、扱ったプリントや課題を提出している。(c) |

| | | | | | | |
|-------------|----|---------------------|---|----|---------------------------|--|
| | | | 広げる | | | |
| 二 学 期 | 7 | 科学者が取り | Lesson 8 | 30 | 仮定法過去/仮定法過去完了 | 各単元に出てくる単語や熟語、言語表現が理解できたり、書くことができる。また、単元の内容を的確に捉えている。 (a) それぞれの単元の文法事項が理解できて定着している。(a) |
| | 8 | 組む世界の水 | Deepika | | if を使わない 仮定法 | |
| | 9 | 問題について考える | Kurup | | no matter + 疑問詞 | |
| | 10 | | | | 特別授業に招きたい発明家や起業家について話す | |
| 三 学 期 | 11 | ホセ・ムヒカさんが考える本当の幸せとは | Lesson9 The World' s Poorest President | 20 | 同格の that 節/強調構文/倒置・省略 | 関連したテーマについて既習事項を用いた作文や発表をしたり、応用的な内容の物を理解できる (b) 授業に積極的に取り組み、扱ったプリントや課題を提出している。(c) |
| | 12 | e スポーツや電子書籍の長所と短所 | Lesson 10 Living in an E-society | | 議論された発言の要旨・根拠や具体例を的確に理解する | |
| | 1 | | Landmines to Herb | | 議論の場面でよく使う表現を身につける | |
| | 2 | | | | | |
| | 3 | | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|---|
| | | | | | | 物を理解できる (b) 授業に積極的に取り 組み、扱ったプリン トや課題を提出して いる。(c) |
|--|--|--|--|--|--|---|

合計 70時間

課程 全日制

| 教科 | 英語 | 科目 | 応用英語 | 単位数 | 2 | 学年 | 3 | 科 | 全学科 |
|----------------|----|------------|------|-----|---|----|---|---|-----|
| 使用教科書 補助教材等 | | 随時、独自教材を使用 | | | | | | | |

1. 学習の到達目標

- ①英語によるup-to-dateな挨拶ができるようにする。
毎時、現代的な英語による挨拶を反復的に行うことで、同言語による挨拶の習得を目標とする。
- ② 英語による挨拶から派生するsmall talkを対話者とできるようにする。
挨拶に関連して、自分に関する情報を、英語の短文を用いて相手に伝えられるようにする。
- ③ALTとのactivitiesを通して、英語によるコミュニケーション能力を身に付けると同時に、日本とALTの母国間の文化差異の理解を深める。
各種activityを通して、自分が感じている事・考えている事を英語で発信できる能力を習得する。
同時にそうしたactivityに参加する中で、自分とALTの間の物事の捉え方、問題の解決の方法の違い等、文化を根幹とする各種アプローチの差異を知る。
- ④学習した表現等を用い、英語でのプレゼンテーションを行う。テーマの設定、情報の収集、情報の整理とまとめ、発表を通し、実践的で実用的なコミュニケーションスキルを磨く。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○ ALT の先生との授業ですので、全て英語で行います。英語での挨拶に始まり、最近の出来事についての small talk は毎回行います。スピーチ、英語劇、プレゼンテーションなどで英語を用いた発信能力を高めるという基本姿勢を強く持ってください。

○ 答えのない問いに対し、自ら考え、自分の意見を持ち、それを英語で考え、英語で伝えるのがこの授業の核です。道具としての英語を磨くことはもちろんのこと、日本国内や世界で起こっている世界情勢についても常にアンテナを高くもち、意見を求められたら答えられるような知識を日頃から身につけておきましょう。特に SDGS については17の目標について日常的に意識し、世界の問題をどう解決してゆけばいいのか探究し、未来に貢献する第一歩としましょう。

3 学習評価

| 評価の観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-----------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| 科目ごとの 評価の観点 の趣旨 | ・英語できちんと挨拶の問い掛けができるか ・一辺倒の受け答えになら | ・それまでの授業でのインプットを活かして、自分が相手に伝えたい事を、適切 | ・各種activityに対して積極的な取り組み姿勢を持っているか |

| | | | |
|--------|---|---|--|
| | <p>ず、場面に応じた受け答えができるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声に抑揚があり、挨拶の中に自分の感情を表現できているか ・収集した情報をまとめ、観客に伝わるように英語で再構築することができるか（スクリプト） | <p>な英語を用いて表現することができるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理された情報を視覚的にわかりやすくまとめることができるか（スライド） ・十分な声量、流暢さ、文法的な正確さ、身振り、アイコンタクトでプレゼンができるか（プレゼンテーション） | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を発信しなければならないactivityでは、他者の真似ではなく、自分自身の意見を形成しようと努力する事ができるか。 |
| 主な評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や small talk での会話の内容、エッセイ、スピーチ、プレゼンテーションのスクリプトの内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチやプレゼンテーションの発表の内容及び到達度 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な授業の取り組みや発言、ペアワークやグループワークへの積極性 ・提出課題の取り組み状況 |

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

| 学期 | 月 | 単 元 | 教 材 | 時数 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 |
|-----|----|-----|--------|----|--|---|
| 一学期 | 4月 | | | | 通年) | |
| | 5月 | | 独自プリント | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・英語を用いた挨拶表現 “What’s new?” “How’re you doing?” “How are you feeling?” 等の問い掛け表現、及び、 Fantastic/ Fine/ Pretty good/ Good /OK/ All right/ So-so/ Not so good 等の受け答え表現の学習 ・自分に関する直近の出来事を動詞の過去形を用いて表現する学習 ・各種activityでのALT・JTEの英語指示、発話を理解するリスニング学習 ・英語を用いた自己紹介で必要な “My hobby is…” “I like…because…” “I’m interested in…” “I’ve | <p>ALT の先生の話す内容を聞き取ったり、わからない時は英語で聞き返したりするなど基礎的な英語表現を理解したか (a)</p> <p>基本の表現を用いながら自分の意見とその理由をわかりやすく表現できるか (b)</p> <p>ペアワークやグループワークではあてられて意見を述べたり発表ができているか (c)</p> |
| | 6月 | | | | | |

| | | | | | | |
|-----|------------------------|--|--------|----|--|--|
| | 7月 | | | | <p>been doing...for~years.”等の表現の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での受け答えで用いる英語表現 “I’ ve got it.” “(I have) no idea” “I’ m sorry for coming late.”等の学習 ・Thanksgiving day, Guy Fawkes Day等、日本にはない行事の起源・歴史、及び現在の慣行の様子に関する学習 | |
| 二学期 | 8月 9月 10月 11月 | | 独自プリント | 30 | <ul style="list-style-type: none"> ・「夏休みをどう過ごしたか」について与えられた定型文を用いた発表 ・英語劇「一寸法師」の動画に英語でアフレコをする。感情豊かに表現する。 ・論文の書き方について、プレゼンスライドの作成方法についてのワークショップ ・「The Tour I recommend おすすめの旅」というテーマで、国を選び、その国の首相の立場から国の抱える問題をSDGS目標3つについて触れながら観光客誘致の英語プレゼンテーション準備 | <p>定型文を用いて原稿を書くことができるか (a)</p> <p>劇や動画アフレコでは俳優や声優になっただけで感情豊かに表現ができるか (b)</p> <p>授業に積極的に取り組み、エッセイ課題を提出しているか (c)</p> |
| 三学期 | 12月 1月 | | 独自プリント | 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・「冬休みをどう過ごしたか」「新年の抱負」(与えられた定型文を用いた発表) ・「おすすめの旅」プレゼンテーション発表会 | <p>プレゼンではSDGSについて自分の選んだ国の目標の現状を英文で調べ、まとめることができるか (a)</p> <p>プレゼンについては自分の国の課題をどう解決するか論理的に説明ができるか (b)</p> <p>プレゼンの原稿は論</p> |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|---|
| | | | | | | <p>文の形式をとり、スライドは効果的につくられているか</p> <p>(b)</p> <p>プレゼンでは練習を重ね、原稿を暗記し、聴衆に訴えかける効果的なプレゼンができたか (b)</p> <p>プレゼンの原稿とスライドを締切りまでに提出できたか</p> <p>(c)</p> |
|--|--|--|--|--|--|---|

合計 70 時間